



(第 36 号)

発行所 高松市番町二二
高松高等学校内
香川県立高松高等学校玉翠会
発行 榎田 實
責任者 榎田 實
印刷所 石田印刷(有)



ご挨拶

玉翠会会長 榎田 實

大西前会長より、玉翠会会長を引き継ぎ、早一年が経ちました。この一年間で、昨年六月の「徳島玉翠会」を皮切りに、七月の「東京玉翠会」、十月の「関西玉翠会」、十一月の「岡山玉翠会」、そして今年五月の「東海玉翠会」とようやく各地「玉翠会」を一巡し終えました。

そして感じた事は、各地で「高松高校卒業生」、又「讃岐人」としての伝統の血が脈々と流れている事です。普段は、その他に馴染み同化している卒業生の皆さんも、同窓会の集まりとなると、タイムスリップした様に昔の高校時代の同級生、同窓生となり、「讃岐弁」も飛び出し雰囲気がかかります。

以前は、日本で一番狭い小さな県で、全国での認知度も低く、四国四県の中でも、「阿波踊」の徳島、「よさこい」の高知、「坊っちゃん」の愛媛程度のブランド力も無く、寂しい思いでしたが、近年「讃岐うどん」が香川ブ

ランドとして確立されました。その後「うどん」だけじゃない香川県」として、地域ブランドの全国への発信を続け、地域の強みと接点を考え、そしてターゲットを明確にして、魅力有る地方として位置付け、これを機会に卒業生のＵターンを促したいとの思いです。

又、高校教育においては、グローバル化への対応、国際社会で活躍出来る人材の育成が必要かと思えます。「教育の国際化」は避けて通れない、そして国際化に伴い多様な「知識」「経験」が必要不可欠となりますが、市原校長先生の話しでは、我高松高校は、来たるべき将来の為に、着々とその準備を進めているとの事で、誠に心強い限りです。

最後にこの六月の総会が終了して、それから一年、各地の玉翠会訪問がスタート致しますので、皆様にお逢いできる機会を楽しみにしております。



ごあいさつ

高松高等学校校長 市原 伸作

玉翠会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、母校の教育活動に対して深いご理解と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、母校は創立百二十三年を迎えます。創立百二十周年記念事業で作成した昭和の教室内を再現した模型は、高中、県女の校舎模型と並んで、玄関に展示されており、時々眺める新入生たちに高松の歴史と伝統を伝えてくれているように感じます。

今年度、高松高校には、全日制九百六十三名、定時制二十八名、通信制二百八十二名の生徒が在籍し、勉学や部活動等に励んでいます。昨年度、陸上競技部やヨット部が全国高校総体に出場するとともに、国民体育大会の馬術競技においての優勝やボクシング競技での入賞、パソコン甲子園での四位入賞など、生徒たちは文武両面で活躍しています。また、昨年度、北米地域との青少年交流事業の実施校に選ばれ、七月の米国高校生二十三名を高松に迎えての交流は台風のために実施できませんでしたが、今年三月に本校生徒二十三名が米国に派遣され、我が国や郷土香川の魅力

やよさを発信し、意義ある異文化交流体験を行いました。さらに、本年度、本校は文科省から、未来のグローバルリーダーを育成する「スーパーグローバルハイスクール」事業のアクションシート（準指定校）に位置づけられ、香川大学や香川県、JICA等と連携して、グローバル課題について探究的な学習をはじめ、海外との交流など、コミュニケーション能力や異文化能力を伸長する取組を進めております。会員の皆様方には、今後、いろいろな面でご支援やご協力をお願いすることもあろうかと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今後とも、高中の「至誠一貫」や県女の「雪持ち笹」の精神を受け継ぐ良き校風と、高松の「独立自主」の精神を大切にしながら、「自ら学び自ら考え、行動するグローバルリーダー」の育成をめざし、教育活動の一層の充実に努めてまいります。玉翠会会員の皆様の一層のご協力、ご支援をお願い申し上げますとともに、玉翠会の益々の発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。

代議員名簿

菅野 正朗	(事務局長)	浅野 道子	(副会長)	山田 久雄	(副会長)	大山 貞雄	(副会長)	入倉 憲二	(東海玉翠会会長)	渡邊 恵子	(顧問)	渡辺 恒明	(顧問)	渡邊 謙	(名誉会長)	寺嶋 吉保	(監事)	坂口 英則	(副会長兼事務局長)	香川 典子	(副会長)	中村 芳正	(副会長兼会計)	長尾 哲見	(徳島玉翠会会長)	山下 一盛	(顧問)	太田 武夫	(名誉会長)	辻 孝夫	(名誉会長)	片山 美穂	(事務局)	多田 譲治	(事務局)	仁木 壯	(副会長)	坪金 諄子	(副会長)	河野 一郎	(岡山玉翠会会長)
-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----------	-------	------	-------	------	------	--------	-------	------	-------	------------	-------	-------	-------	----------	-------	-----------	-------	------	-------	--------	------	--------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-----------

理事 監事 高木 敬子・宮脇シズ子・谷本 文子・大久保和子	理事 監事 丸山 修・加藤 達雄・岩部 隆・菰瀨 昭	理事 監事 高木 敬子・宮脇シズ子・谷本 文子・大久保和子	理事 監事 丸山 修・加藤 達雄・岩部 隆・菰瀨 昭	理事 監事 丸山 修・加藤 達雄・岩部 隆・菰瀨 昭	理事 監事 丸山 修・加藤 達雄・岩部 隆・菰瀨 昭
---	--	---	--	--	--

高野	渡邊	松島	高中部会	古川	静夫	上原	明正	宮脇	安治
典雄	良平	原内	平	松野	隆明	木内	正夫		
黑田	昌男	清谷	圭一	壺井	正				
猛									
晚翠部会	井上	良子	伊藤喜美子	笠井	愛榮	遲澤シヅ子			
瀧口	清子	山形	芙目	繁谷	一子	川淵	信子		
秋山	多美子	荒木	聡子	加藤	鎮子	佐藤	恭子		
神谷	順子	松田	郁子	西尾	信子	伊藤	悦子		
矢野	愛子	岡部	澄子	水野	綾子	石原	卿子		
玉城	玲子								
香月	フミ	丸尾喜美子	中村美恵子						
栄	中嶋	久富	榎塚						
多田	二	河内	慈子	灘波	文子				
孝尚	平井	作花	節子	竹内	昌子	太田	一彦		
正司	吉田	留美子	山西	守	森	恵洪			
聡子	中村	敬子	真鍋千賀子	吉田	晃				
善一郎	正章	松原	剛	秋山夫佐子	中障子不二子				
熊	勝一	増田	勝彦	星川美智子	小野	朝子			
岡崎	忠知	森田	幸子	日野	楓	地下	洋		
遠藤	進	上野	文夫	八代	紀子	横井	侑子		
細川	治	佐竹	睦子	豊田	郁子	喜多	俊雄		
高濱	孝	谷沢	一朗	笠井マコ	谷本	明子			
千切合多二郎	鎌田	基志	岡田佳代子	飛田	久子				
三宅加代子	猪又	清之	松尾久美子	久保	武士	公子			
今岡	幹典	沼田	敬純	池西	敬子	大橋	公子		
大和田昭邦	尾碓	正澄	嶋	由利子	濱本貴美子	通子			
角田	朝則	泉谷	武信	中村茉莉子	花岡	通子			
香西	幸夫	三橋	朝子	高橋	博之	福井	励子		
平井	大資	十河	喜代	川西	笑子	池田	紀治		
上野	準一	堀家みどり	森	佐知子	小川	雄磨			
小原	文雄	重松佐栄子	森瀬	敏恵	笹島	幹磨			
榊原	賢治	尾形	多津	神内	幾代	鎌田順二郎	昭		
圖	泰	飯間	康代	長嶋	佳子	嶋村			
藤川	宏樹	池田	恵子	西山	弘子	岡	永二		
帰来	雅基	泉	暁美	織田	幹子	佐伯	典久		
福田	安伸	久保	睦子	久松吾都子	大西	葉子			
平尾	直子	新名	孝司	北條ひとみ	佐々木祥二				
古川	正美	松下	節子	松延	健二	関谷	利裕		
斎藤	雅春	秋山	弘樹	松岡	利佳	浅野	浩司		
藤井	浩史	渡邊	智子	水本恵美子	松本	寿			
門脇	禎人	川井	幸	佐藤いずみ	三野	靖			

古市	信二	小野山千津	吉岡	義人	前野	勝彦
大倉	惠美	三枝	穀士	和田	朝子	土居
西口	敦	荒木	隆	山口	太郎	池田
久枝	了	新藤	正明	瀨崎	直哉	井上菜々子
植田	秀美	鳥養	智子	谷田部秀男	千切合耕一郎	潤
神人	香織	森末江美子	小竹	重敏	西口	
吉川	克知	石原	志保	山本由實里	井手下和洋	
山上	明人	西口	園恵	山下晶子	川中章弘	
真鍋	佳樹	嶋	宏美	有友	明美	大橋
朝倉	康正	串田	えみ	三原	洋子	福家
中村	裕美	松村佐知子	國方真由美	松岡	敬三	
小山	尚人	森岡	純	常谷	紗己	向井健二郎
齋藤	直樹	石原ゆかり	黒田	寛子	千葉	一孝
小林	俊博	笹島	正豊	磯野	唯	陶山
納田	裕崇	賀須井悠莉	川口祐貴子	甲	康平	
井上真梨子	辻	曉里	中村	菜摘	森塚	雅斗
塩梅	直子	黒部紗英子	川田	拓弥	杉村	眞子
六車	京香	向井	健人	川田	佑生	
定通部会						
福島タケ子	繁光	康良	河端	豊	野中	日勝
中山	敏男	住吉	榮司	佐々木允子	松本	悦治
大見	昌弘	苦澤	昭一	田淵	薫	大川
田中	和昇	川口	光子	前田	聡子	野近美佐子
岡本	研治	片山	和美	帶包	幸子	楨井
横井	美里	竹下	紀子	陶山	伸一	乙武
市原	武	山崎	睦生	青木	鈴子	香西
川崎	充大	正見	昭仁	松永	豊子	長尾美智子
木野戸志保	徳田	亮	亀井	啓三	上村	真二
細井	慶子	沖田フサエ	公文	陵二	島田	龍
竹内	沙織	武田	芳美	杉山	康明	稲葉
塩田	昇	山崎	五月	石川	一朗	青木
塩崎	文香	林	一興	北村	成子	奥中
吉岡	大輔	山川祐理子	坂東	真	江本	愛
河田	晃典	山口	夏奈	上田	一治	苺井
後藤	敏子	窪田	英二	池内	慶子	白石
野村	美穂	香西	辰也	水谷龍之介	筒井麻里子	雄司
森	裕子	山下	泰啓	井元	知保	池田周一郎
山崎	愛	植村ちひろ	滝川	亮太	松川万須美	雄二
梨野	惇嗣	丸山	美侑	谷口	絢香	山田
池田	将隆	藤澤	理絵	大西	隆太	大熊
亀田	真実	溝渕	武範	山田	秀人	山本あやめ子
中田	雄太	久保麻依子	宮脇			
小網	雅子	福西	唯			

平成27年度 玉翠会事業計画

月	日	曜	事 業 名	会 場
4	27	月	玉翠会 会長・副会長会	校長室
5	12	火	会計監査	5階会議室
5	16	土	東海玉翠会 第9回総会	名鉄グランドホテル
6	13	土	玉翠会理事会・代議員会	玉翠ホール
			玉翠会・PTA合同懇親会	リーガホテルゼスト高松
			玉翠会教育基金運営委員会	校長室
6	28	日	徳島玉翠会総会	ザ・グランドパレス徳島
7	4	土	玉翠会報第36号発行	
7	4	土	東京玉翠会総会	グランドプリンスホテル新高輪
7	10	金	第1回玉翠グローバルアカデミー(GGA) 国際協力機構 (JICA) 国際緊急援助隊緊急援助第二課長 山根 誠氏 (平元年卒) 「国際協力の現場から」	玉翠ホール
9	5・6	土・日	文化祭	高松高校
10	24	土	関西玉翠会総会	太閤園
			先輩講演会 (第2回 GGA) 石油資源開発 (JAPEX) 社長 渡辺 修氏 (昭34卒)	体育館
11	14	土	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
2			玉翠会 会長・副会長会	校長室
3	4	金	卒業式	体育館

平成26年度 玉翠会事業報告

月	日	曜	事 業 名	会 場
5	12	月	会計監査	5階会議室
5	16	金	玉翠会 会長・副会長会	校長室
5	17	土	東海玉翠会 第8回総会	名鉄グランドホテル
6	7	土	玉翠会理事会	1階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会・PTA合同懇親会	リーガホテルゼスト高松
6	26	木	玉翠会教育基金運営委員会	校長室
6	29	日	徳島玉翠会総会	ザ・グランドパレス徳島
7	5	土	玉翠会報第35号発行	
7	5	土	東京玉翠会総会	グランドプリンスホテル新高輪
7	7	月	第1回玉翠グローバルアカデミー(GGA) ㈱459 代表 眞鍋邦大氏 (H9卒) 「ローカルベンチャーという生き方」～地元を伝える仕事～	玉翠ホール
9	6・7	土・日	文化祭	高松高校
10	25	土	関西玉翠会総会	太閤園
10	31	金	先輩講演会 (第2回 GGA) NTTフェロー 守屋健弘氏 (49卒) 「情報革命を楽しむ」	体育館
11	15	土	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
2	10	火	玉翠会 会長・副会長会	校長室
3	6	金	卒業式	体育館

平成27年度 玉翠会会計収支予算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
玉 翠 会 入 会 金	1,037,200
玉 翠 会 会 費	8,500,000
雑 収 入	42,170
収 入 の 部 合 計	9,579,370

〈支出の部〉

費 目	金 額
本 部 運 営 費	7,600,000
支 部 運 営 費	1,200,000
卒 業 記 念 品 料	130,000
学校助成金会計への繰入支出	2,000,540
備 品 充 実 費	500,000
退職積立預金支出	100,000
予 備 費	300,000
支 出 の 部 合 計	11,830,540
当年度収支差額	△ 2,251,170
前年度収支差額	15,421,979
次年度収支差額	13,170,809

平成26年度 玉翠会会計収支決算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
玉 翠 会 入 会 金	951,000
玉 翠 会 会 費	8,623,568
雑 収 入	65,945
収 入 の 部 合 計	9,640,513

〈支出の部〉

費 目	金 額
本 部 運 営 費	6,925,177
支 部 運 営 費	1,230,270
卒 業 記 念 品 料	111,202
学校助成金会計への繰入支出	2,000,540
備 品 充 実 費	294,080
退職積立預金支出	100,000
予 備 費	0
支 出 の 部 合 計	10,661,269
当年度収支差額	△ 1,020,756
前年度収支差額	16,442,735
次年度収支差額	15,421,979

平成27年度 玉翠会学校助成金会計収支予算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
玉翠会会計より繰入金	2,000,540
受 取 利 息	400
収 入 の 部 合 計	2,000,940

〈支出の部〉

費 目	金 額
雑 費	540
支 出 の 部 合 計	540
当年度収支差額	2,000,400
前年度収支差額	2,000,223
次年度収支差額	4,000,623

平成26年度 玉翠会学校助成金会計収支決算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
玉翠会会計より繰入金	2,000,540
受 取 利 息	223
収 入 の 部 合 計	2,000,763

〈支出の部〉

費 目	金 額
雑 費	540
支 出 の 部 合 計	540
当年度収支差額	2,000,223
前年度収支差額	0
次年度収支差額	2,000,223

平成27年度 創立百周年記念玉翠会教育基金収支予算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
受 取 利 息	4,000
雑 収 入	0
収 入 の 部 合 計	4,000

〈支出の部〉

費 目	金 額
奨 学 金	2,160,000
教 育 活 動 費	200,000
雑 費	540
予 備 費	50,000
支 出 の 部 合 計	2,410,540
当年度収支差額	△ 2,406,540
前年度収支差額	19,530,284
次年度収支差額	17,123,744

平成26年度 創立百周年記念玉翠会教育基金収支決算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
受 取 利 息	4,324
雑 収 入	44,000
収 入 の 部 合 計	48,324

〈支出の部〉

費 目	金 額
奨 学 金	2,040,000
教 育 活 動 費	31,300
雑 費	540
予 備 費	0
支 出 の 部 合 計	2,071,840
当年度収支差額	△ 2,023,516
前年度収支差額	21,553,800
次年度収支差額	19,530,284

平成27年度 甲子園出場記念教育基金収支予算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
雑 収 入	1,768
収 入 の 部 合 計	1,768

〈支出の部〉

費 目	金 額
教 育 活 動 費	800,000
雑 費	540
支 出 の 部 合 計	800,540
当年度収支差額	△ 798,772
前年度収支差額	8,958,592
次年度収支差額	8,159,820

平成26年度 甲子園出場記念教育基金収支決算書

〈収入の部〉

科 目	金 額
受 取 利 息	1,768
収 入 の 部 合 計	1,768

〈支出の部〉

費 目	金 額
雑 費	540
支 出 の 部 合 計	540
当年度収支差額	1,228
前年度収支差額	8,957,364
次年度収支差額	8,958,592

平成二十七年 理事会・代議員会開催される

故 形見重男副会長の後任に

久米房之助氏 (高中三年 五四回 前理事) が副会長に。



平成二十七年玉翠会理事会は六月十三日(土)午後二時より高松高校会議室にて五十五名の出席にて開かれ、続いて代議員会は午後三時より五階玉翠会館ホールにて百五十名の出席をもって開かれた。

理事会に続いて開かれた代議員会においては、開会に先立ち、昨年度以降事務局にご逝去の連絡をいただいた二百二十二名の方々のご冥福をお祈りし、全員で静かに黙祷を捧げた。

多田教頭の司会により、まず榎田会長より、昨年、大西前会長から引き継いだ玉翠会が、皆様のご協力を得て、また、副会長の時代を見据えた運営の改善などで順調に進んでいることに感謝の言葉を含み挨拶があった。

続いて四年目の市原伸作校長より「皆様の物心両面のご支援のおかげで生徒の学習環境の充実はもちろん、進路意識を持たせるために諸先輩方の多大なご協力を得て、学校としても心強い。」とお礼の言葉があり、「文科省の「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に立候補したが、今年度は準指定校となった。来年度は指定校となれるよう、生徒の海外派遣費など、玉翠会のご支援をお願いしたい。具体的には予算案にてお示しする」

というお願いがあった。また、皆様には今後ともご理解ご支援をよろしく願いたい、と挨拶が続いた。

議事は会則に従い榎田会長の議長のもと進められた。事務局より、まず、前年度事業報告・本会計と三つの会計決算報告(4p参照)、安達監事より監査報告があり、拍手で承認された。続いて臨時の役員改選があり、まず、

監事について、故前田道正氏(二五年 今年五月ご逝去)の後任に、理事の小川和彦氏(三七年)が承認され、理事の交代は、晩翠二〇年が喜岡美知子氏から宮脇シズ子氏へ、三七年は新たに山内康生氏、通信部会は野網省平氏(四三年)、川東孝俊氏(平成五年)から毛利成一氏(四二年)、頼富美穂子氏(五二年)が承認された。続いて、今年四月九日ご逝去された、副会長の形見重男氏(高中一九年四九回)の後任に、久米房之助氏(二三年五四回)が、今年度理事によって互選されたことが報告された。その後今年度事業計画案及び会計収支予算案(4p参照)の審議が行われ、原案どおり承認された。

今回は、加えて三つの議題があり、

○ 来年度は、理事会と代議員会を一回で行う、会則の見直しも含めて今後検討していく。

○ 会報を郵送ではなく、パソコンで見られるようにするために、セキュリティを第一にシステムを考えている。については、今回の会報のラストのページを必ずご覧いただきたい

○ 高松での懇親会を、これまでは周年の一〇年ごとだったのを二、三年ごとに開いたらどうか、そのために、まずは準備委員会を昭和五〇年以降卒業の代議員を中心に開く。

以上の三つの議題について、承認された。最後に事務局より、年々、繰越金が減少状況で会費納入をお願いしたいとのお願いがあった。

投稿募集のお知らせ

玉翠会報では次のようなコーナーを設けたいと考えております。

- 1 「文集」・・・各学年で文集を出されしたら、一冊事務局あてへお送りくださると紹介させていただきます。六月七日の代議員会では三十七年卒の皆さんの文集が配られました。
- 2 「卒業写真」・・・卒業写真とともに懐かしい高校時代を振り返り、その思い出、エピソードなどを綴っていただくコーナーです。
- 3 「文芸欄」・・・会員の皆様方からお寄せいただいた作品を紹介させていただくコーナーです。随筆、詩、短歌、俳句など、ジャンルは問いません。

また、「あの先生は今...」「ただいま活躍中!」のコーナーに掲載する方のリクエストもお待ちしております。その他お気づきの点などございましたらお聞かせいただけたらと思います。

宛先は「玉翠会事務局」まで、郵送又はFAX、電子メールでお願いいたします。

訃報



玉翠会 副会長を平成二〇年からお務めくださっていた形見重男さまが、平成二七年四月九日、ご逝去されました。

常に思慮深く、私どもを温かくお導きくださいました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

最後に牟禮明副会長の閉会のことは平成二十七年玉翠会代議員会を終了した。

香川県立高松高等学校玉翠会事務局

〒760-0017 高松市番町3丁目1番1号
電話 (087) 831-7251(代) FAX (087) 831-0010
mail:info@gyokusui.org

玉翠会

検索

ホームページ

公式: 香川県立高松高等学校同窓会玉翠会本部
gyokusui.org/

支部会だより

東京玉翠会



東京玉翠会は昨年七月五日(土)、グランドプリンスホテル新高輪「飛天」にて、第三十三回の総会を一〇八四名の参加をいただき盛大に開催いたしました。毎年、卒業四半世紀を迎えた卒業生により行われるこの総会も、平成世代が運営する二回目となり、掲げたテーマは「高高から、つながる・ひろがる」。高高という共通の原点から世代を超えたつながりを改めて実感する会となりました。

当日は新しい試みとして、「我が母校とふるさと高松」の一・二〇年間の変遷を、二〇〇枚を超える写真で紹介する「パネル展」を開催。大正、昭和から平成に至るさまざまな世代の皆様が母校とふるさとへの思いを深めていました。

また特別企画として、平成九年卒業のサクソフオーン奏者、國末貞仁さんと、平成十七年卒業のピアニスト、大堀理沙さんによる「ミニコンサート」を開催。平成十四年卒のシンガー・ソングライターの舞子さんの作曲による、「光の記憶」などを披露し、



優雅な雰囲気の中、卒業生の活躍に多くの拍手が寄せられました。

当日配布したプログラム誌では、パネル展示写真のうち厳選された五〇枚を掲載、高松中学校、高松高等女学校、そして高松高校の懐かしい校舎の写真を紹介。さらに、ミニコンサートに出演した國末さんや、平成二年卒業の春風堂の新ブランド「ラ・ファミーユ」創業者、千切谷耕一郎さんのインタビューなども掲載し、さらにイベントを楽しんでいただくことができました。また「さぬき人がオススメする東京さぬきうどんMAP」では幹事メンバーが足で回り、都内のさぬきうどん店がずらりと並ぶガイドブックが完成しました。



東海玉翠会



会長 入倉 憲二
(昭和四十四年卒)

東海玉翠会は、二〇一五年五月十六日(土)に名鉄グランドホテルにて第九回総会を開催しました。今年の出席者数は、初出席の三名を含めた三十八名で、和やかで楽しい総会・懇親会となりました。

ご来賓として、市原校長、多田教頭、横田玉翠会会長ならびに東京・関西・徳島各玉翠

また、スポーツ・文化など十七を数える東京玉翠会の同好会でも、今年も活発な活動が行われました。二〇一三年に発足した大江戸散歩会はゴールデンウィークの最後の日に、ホテルオークラで開催された花園展覧会を見学した後、「とうふ屋うかい」で会食、さらに芝明神や旧芝離宮公園を散策する優雅な休日を、世代を超えて楽しみました。

さて、第三十三回を迎える今年の総会は七月四日(土)に昨年同様グランドプリンスホテル新高輪「飛天」にて開催いたします。本年は平成三年の卒業生が幹事団を担当し、「讃讃高高(NIPPON1)」というテーマを掲げて準備を進めております。

三十三回という回を重ね、毎年一〇〇〇名を超える人々が旧知を深めるこの同窓会を、そして故郷香川を「日本一」とたたえよう、という思いを込め、過去最大人数であった第二十三回を、日本版ギネスブックとも言われる「NIPPON1.net」に申請し、「団体としての高校同窓会参加人数日本一」と認

会の役員にご出席いただき、母校や本部の近況や各支部の様子について大変興味あるお話しをいただきました。特に、高松高校に関しては、全国高校野球一〇〇年を記念して、第一回大会に出場した高松中学の復刻ユニフォームを着用した現役野球部員が開会式で入場行進するというお話しを伺い、是非ともテレビ中継で拝見したいと思っております。

また、関西玉翠会からは、同総会のための取材に担当幹事二名も出席され、取材の傍ら、当会会員との交流を深めていただきました。総会にて各支部の活動状況が紹介されるとのことなので、楽しみにしております。

懇親会では、高松高校にまつわるクイズ大会を実施し、賞品の豪華讃岐うどんを懸け、全員が張り切って全問正解にチャレンジしま



定されました。これを祝う形として、香川が生んだ「日本一」のモノ・コト・人を集め、PRコーナーでの現物やパネル展示、プログラム誌での紹介、物販コーナーでは香川の「日本一」にまつわる品々や高オ리지ナルグッズの販売など、さらなる記録更新に向けてさまざまな催しを企画しております。

ぜひ多数の皆様にご来場いただき、高高と香川の魅力を再発見し、旧知を深め、出会いを広げる場として楽しんでいただければと思います。

第三十三回東京玉翠会総会幹事

吉野ユリ子(平成三年卒)

した。問題の半分も進まないうちに大半の方が脱落してしまうほどの難問でしたが、母校にまつわる歴史や雑学を知る面白いクイズでした。

当支部では、少しでも多くの方に総会に参加していただけるよう地道な活動を継続すると共に、これからはソーシャルネットワークサービスなどのITも活用して、名簿に掲載されていない東海地区在住の同窓生の掘り起こしも行い、来年に節目を迎える第十回開催を盛大に開催したいと考えております。

本部・他支部の皆様も、転勤等で東海三県へお住まいになる際には、当会事務局へご連絡いただき、是非とも東海玉翠会にご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

関西玉翠会

第二十一回 関西玉翠会総会ご報告

くかたろう、うたおう、ひろげよう
ープチふるさと祭りin関西ー

「第二十一回 関西玉翠会総会」は二〇一四年十月二十五日(土)、太閤園にて開催され、高中・県女・高松の卒業生約二四〇名が一同に集い、ふるさと高松に想いを馳せながら大いに語り・歌い・親交の輪が広がる場となりました。

総会はこの一年の物故者への黙祷から始まり、関西玉翠会樋口順一会長のご挨拶のあと、議事(二〇一三年度決算や活動報告)へのご承認を頂きました。次にご来賓を代表して玉翠会榎田会長よりご挨拶を頂き、関西玉翠会から高松高校への寄付金の贈呈が行われました。

総会に続き恒例の懇親会を開催しました。懇親会では高松高校市原校長先生より高松の現状と学生の様子のお話から始まり、市原校長先生のご発声で乾杯を行い歓談に移りました。



歓談の冒頭では全国で活躍されているサキソフォン奏者の國末貞仁さん(日九卒)による演奏が行われ、多くの方々にご堪能いただきました。

演奏後、前方スクリーンには、高松の街の風景、高松文化祭、高松まつりを取り材したビデオを上映し、懐かしい高松の近況をご覧いただきました。

続いて、吹奏楽部OB・OGによる吹奏楽演奏です。各地から集まった総勢十名の吹奏楽部卒業生による吹奏楽演奏では、ゲストの國末さんも加わって美しいハーモニーを披露して頂きました。



その後、歴代教員の中では一番の芸達者と自他共に認める木村元教諭(生物科)の登場です。数ある特技の

内から、立体折り紙の講演を頂きました。随所に笑いのエッセンスを盛り込んで頂き、場が大いに沸きました。

会場の外では、香川県大阪事務所の協力で香川物産店を開設。地元香川の品々を皆さんに買い求め頂きました。

総会の締めはなんといいでも応援団演舞です。記念品としてお渡しした赤い手ぬぐいを参加者全員で掲げ、応援マーチに合せて振り、野球場の応援席で声援を送った事を思い出していただけたようで会場が一体となって大変盛り上がりました。



最後の校歌斉唱では、みなさん手ぬぐいを片手に立ちあがっての大合唱となり、改めて校歌の素晴らしさを共有しつつ、閉会とさせていただきます。

当日ご参加の皆様には会報第二十一号とともに、高松高校から提供頂いた高松高校新聞、玉翠会報をお渡ししました。また、総会参加の記念品として、校章入り赤い手ぬぐい、赤袋のしょうゆ豆、高松祭りの赤いうちわと「赤」に統一した品をお渡ししました。沸き立つような演出と赤に統一された記念品は皆さんに喜んで頂けました。

多くの方々のご支援のおかげをもちまして、二〇一四年総会を無事終えることが出来ました。本当にありがとうございました。二〇一五年も太閤園にて皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。



二〇一四年総会幹事

(昭和五十八年卒) 一同

岡山玉翠会



会長 河野 一郎
(昭和三十四年卒)

時は流れ、各地玉翠会のしんがりを務めて岡山玉翠会も本年度の総会を迎えようとしております。平成二十七年の第三十七回総会は十一月十四日にアークホテル岡山で行われる予定で、恒例の講演は岡山大学経済学部教授の中村良平先生にお願いしております。興味深いお話をうかがえると思いますので各地



徳島玉翠会



会長 長尾 哲見
(昭和四十四年卒)

徳島玉翠会は昨年、第二十一回総会・懇親会を開催し、ご来賓として、玉翠会本部から大西顧問、楨田会長、脇、常谷、牟禮、間島の各副会長、母校からは市原校長、黒島教頭が、支部からは田島関西玉翠会副会長、河野岡山玉翠会会長、入倉東海玉翠会会長のご列席を賜りました。

大西顧問の乾杯のご発声で乾杯、和気あい

玉翠会の皆様にはぜひご出席いただきたく存じます。岡山玉翠会はきわめてこじんまりとした規模ですが、それだけ家族的で暖かい雰囲気大切にしています。平成二十六年の第三十六回総会は十一月十五日にアークホテル岡山で開催され、玉翠会本部から楨田實新会長はじめ脇、常谷、牟礼の三名の副会長と事務局の板東さん、母校の市原校長と香西教頭の両先生、関西玉翠会樋口会長、徳島玉翠会坂口監事などにご来岡いただき、また真鍋武紀前香川県知事には常に変わらぬご支持を頂きました。ゲストスピーカーの堀井茂男先生(昭和四十一年卒、

あいとした懇親会の中で大西顧問には長く本会にご出席頂き、軽妙な挨拶を頂戴した事からサプライズで感謝状を贈呈させて頂きました。また、我が支部恒例の一分間スピーチの近況報告は毎回時間オーバーをはらはらしながらも楽しいひとときを過ごしています。

今年は六月二十八日午後一時より徳島駅西側のザグランドパレスで第二十二回総会を開催いたします。恒例の特別講演は国内での腰痛治療の最先端である内視鏡技術の技術認定医でもある徳島大学医学部運動機能外科の西良浩一教授の「腰痛完治の最先端プロセス」確定診断への方程式」と題しての講演があります。また、徳島の歴史のクイズも企画して

精神科医)によるボランディア活動「岡山いのちの電話」のご講演をは切りに恒例のビンゴゲーム、校歌斉唱まで出席者全員で楽しい時間を共有することができました。

岡山玉翠会も会員数がなかなか増えず近年いささか活力が低下気味になってきており、ここらあたりで何らかのてこ入れが必要ではないかと感じております。本年の総会後には役員の若返りをはじめとして、変革へ向って努力してゆきたいと思っておりますので郷里香川をはじめ各地玉翠会の皆様には今後ともよろしくお願い申し上げます。

います。恒例の一分間スピーチも行います。第二十二回総会誌も役員を始め、編集担当の遠見千香さん(昭和四十九年卒)のご尽力で出来上がり、坂口英則新事務局長(昭和四十八年卒)を中心に案内文等の発送作業も完了しました。

ご挨拶を頂戴した楨田實会長からは文中で母校創立一二〇周年を記念して徳島支部が寄付した寄付金で購入した冬の暖房機四機が体育館での卒業式で活躍してくれた事を報告して頂き徳島支部として嬉しい限りです。

さて、昨年末から徳島県知事はVS東京を掲げて徳島県の飛躍発展を期そうとしています。都知事とも過日対談してその意気込みや意味を語り合いました。「地方創世」はある意味「地方の知恵の競争」だと思います。地方には地方の良さがあります。玉翠会も東京、関西といった都市部の支部と違い、参加者は少ないですが、「全員一分間スピーチ」は徳島玉翠会ならではの特徴です。「量」も大切ですが「質」も大切です。徳島玉翠会VS東京玉翠会の心意気で徳島支部も役員を始め皆様のご協力で「質量ともに」徳島支部を盛り上げてまいりたいと決意しております。

最後に玉翠会の皆様で徳島県内の大学や企業に入学や入社・転勤される方は是非ともご連絡を頂き、徳島玉翠会の仲間として徳島での楽しい人生を共に過ごしてまいりましょう。

定時制だより

ご挨拶

教頭 香西 新五

平成二十七年度は、新入生五名を迎えて、生徒二十八名(男子十一名、女子十七名)、職員六名でスタートしました。

生徒は、卒業後の進路を見出そうと、夕方からの授業に真剣に取り組んでいます。私達職員は生徒の個性や実態を尊重しながら、内容を精選し、基礎・基本を大切にしたい「わかる授業」に徹したいと考えています。

また、学校行事にも工夫や改善を加えて学校生活の活性化を図っていきます。

始業前や放課後、職員室では、生徒たちのにぎやかな話し声が絶えません。今後とも生徒と教師のふれあいの場を多くし、一人ひとりの生徒を大切にしたいと思っています。

以下、本校定時制の学校行事を紹介します。なお、編集の都合上、「コミュニケーション講座」からは昨年度のものです。

○入学式

—男子一名、女子四名—



四月七日(火)、五名の新入生が定時制課程に入学しました。新入生からは「新しく学べることにうれしさを感じます。」「毎日休まず通って勉強や部活動が頑張りたいです。」等の抱負が寄せられ、高校生活への期待と意欲がうかがえました。

○屋島宿泊研修

—協力した野外炊飯—

四月二十一日(火)二十二日(水)、一年次生が参加しました。晴天に恵まれ、オリエンテERINGや野外炊飯などで、山と海に囲まれた屋島の自然を満喫しつつ、お互いの親睦を深め

ました。生徒達は「山に登ったり、海へ行ってバシヤバシヤと遊んだり、皆でカレーを作ったり、とても楽しかったです。」と普段と違う生活に満足したようです。

○「コミュニケーション講座」

—社会とのつながりを—

「かがわ若者サポートステーション」の協力を得て、「コミュニケーション講座」を開催しました。年間五回の講座を通して、挨拶や表情、心構えなどについて実践を交えて学びました。自分も相手も大切にしたいコミュニケーションをこれから心がけたいものです。

○県定通総体



六月二十二日(日)、香川県定通総体が開催され、男女ともバドミントンに出場しました。団体戦では、善戦及ばず男子が二回戦、女子が初戦で敗退しました。個人戦では、三年次生の青木君、二年次生の塚原君がベスト十六に進出を果たしました。

選手達は試合の約三週間前から毎日放課後の練習に励んでいました。先輩が後輩に教える姿や、先生を相手に猛練習する姿が毎晩見られました。

○第六十三回文化祭

九月六日(土)、七日(日)の二日間、文化祭が開催されました。今年は、各学年次の展示に加え、全員でサンゴ礁をイメージしたペットボトルアートに取り組みしました。夏休みも登校して制作



しました。二日目にはペットボトルビーズのワークショップやバルーンアートを作成し、小さな子にプレゼントしました。全員の協力で展示ができ、お客さんたちや子どもたちとも楽しく交流できて、生徒たちは充実感を得たようでした。

○観月句会

—お月様は月齢九—

十月三日(金)、今年の月は月齢九でした。ほどよい高さには月はあるものの、雨が降った後で雲がかかっており、なかなかその顔を見ることはできませんでした。雲の間から少しだけ月が顔を覗かせたように歓声が起りました。運動場でみんな苦労しながら俳句をつくりました。



その後、保護者の方も参加して、玉翠会館和室で、優秀作品の俳句が披露されました。また、和菓子と生徒たちが点てた抹茶を味わい、学年を越えて交流を深めました。

- ・虫の声をすませば大合唱
- ・月の夜の命短し梨の味
- ・秋の夜の月見て思う遠き友
- ・寂しさと癒えない想い秋風に

○生活体験発表大会

—最優秀賞を受賞—

十月二十五日(土)、サンポートホールで県大会が行われ、本校代表として三年次生のラネスさんが出場しました。「これから出会う仲間がいる」と題して、入学直後は日本語がうまくできず、授業やクラスメイトとのコミュニケーションに苦労したものの、友人に支えられ克服できたことなどを素直に表現しました。その結果、最優秀賞を受賞し、香川県代表として全国大会に出場することになりました。全国大会は十一月二十三日に東京、六本木

ヒルズのハリウッドプラザで行われました。ラネスさんは全国から選ばれた演者の中でもすばらしいスピーチを披露し、文部科学省初等中等教育局長賞を受賞することができました。



○災害学習校外研修(遠足)

—南国市へ—

十月二十四日(金)、午前中、南国市消防本部で南国市の南海地震津波対策の説明を受け、大湊地区の津波避難タワーを見学しました。想定される南海地震の津波の大きさや恐ろしさを実感するとともに、南海地震などに備えておくことの必要性を理解しました。その後、のいち動物園で昼食と自由行動を楽しみました。

○予餞会

—四年生をねぎらいました—

二月六日(金)、卒業を迎える四年次生に、三年次生は「ビンゴゲーム」、二年次生は「思い出クイズ」、記憶力クイズ、一年次生は「ジェスチャーゲーム」を準備して、予餞会を盛り上げました。市原校長先生と浮田ジョブサポートティーチャーも参加され、四年次生と談笑されました。



○卒業式

—晴れやかな笑顔で—

三月六日(金)快晴、四年次生六名が晴れて卒業しました。卒業式の後、HR教室で保護者の方々が見守るなか、担任の川田先生といっしょに四年間歩んだ日々を振り返り、念願の卒業証書を手に入れました。その後、南門に移動して記念写真を撮りました。



通信制だより

ご挨拶 教頭 大平 徹

通信制課程では、昨年度三十八名が卒業し、十名が大学・専門学校等へ進学、一名が新規に就職しました。

本年度は、新入生四十二名を迎えて二百八十二名でスタートしました。落ち着いた雰囲気の中で、生徒ひとり一人が、目標を持って充実した学校生活を送れるよう取り組んでいます。

以下、昨年度からの学校行事を紹介します。

○卒業式 三月六日(平成二十六年)

本校体育館において、全・定・通合同の卒業証書授与式が厳かに行われました。



平成二十六年卒業生総数は三百二十一名、通信制課程の卒業生は三十八名。通信制の卒業生を代表して小網雅子さんに卒業証書が授与されました。記念撮影の後、二階AVセンターで表彰状授与式が行われ、十四名が各賞を受賞しました。

○入学式 四月十二日(平成二十七年)

校庭に花吹雪舞う四月十二日、平成二十七年入学式が行われ、四十二名の新入生を迎えました。校長先生から「歴史ある伝統校の本校で共に学ぶ仲間を大切に頑張り、気持ちを持ってほしい。独立自主の精神を身につけ、学習会などのシステムを積極的に活用して勉強に励んでください。」



同窓会副会長(会長代理)から「各自が目標を設定し、いかに実現させるかを意識し、日々を過ごしてほしい。努力を続けて過ごす日々は記憶に残る濃いものとなります。高校生活を日々大切に

に過ごしてください。」という激励の言葉をいただきました。

○つどい 五月二十四日(平成二十七年)



「つどい」は生徒会が中心となって企画し、通信制に新しく入ってきた仲間を歓迎する最初の学校行事です。今年は六十五名が参加しました。午前中は、体育館で特別ミーティングとソフトバレーを行い、班別ミーティングでは通信制での生活について意見交換しました。また、ソフトバレーでは六班が優勝しました。午後からの講演会は徳島文理大学の伊藤悦朗氏を講師にお迎えして、「脳とこころのしくみ」という演題でお話いただきました。どのような食べ物で脳の働きに悪影響を与えるかなどを、ユーモアを交えながら分かりやすく説明していただきました。

○県定通総体開催 六月二十一日(平成二十六年)



第六十三回香川県高等学校校定時制通信制総合体育大会が県内各会場で開催されました。本校通信制からは十四名の選手が陸上競技、バドミントン、卓球、に出場し、熱戦を展開しました。陸上競技では男子が総合3位となりました。バドミントンでは男子個人で真鍋宏彰くん(二年次生)が3位と健闘しました。また卓球では男子団体が準優勝を果たし、男子個人では曲原誠くん(三年次生)、女子個人では上井梨瑚さんがそれぞれベスト4に進出し、全国大会へと駒を進めました。以上の結果から今年は高松通信から二名の選手が全国大会に出場することとなりました。

○生徒会リーダー研修 七月二十日(平成二十六年)

平成二十六年度定時制・通信制夢チャレンジ支援事業で生徒会リーダー研修を行いました。生徒会のメンバーに有志を加え、生徒会の活性化とボランティア活動や環境問題を考える契機として行われた行事です。午前九時に西植田町にあるドングリランド近くの竹林の作業場に到着して男女ともにヘルメットやのこぎり、なたを身につけ、作業に取りかかりました。竹の倒れる方向を考えたり、倒した後の枝打ちの方法などガイドの人の指示を仰ぎながら、約二十本の竹を切りました。暑い一日でしたが、竹林の中でさわやかな汗を流すことのできた充実した一日でした。

○校内生活体験発表会 八月三十一日(平成二十六年)



五階玉翠ホールで第四十七回校内生活体験発表会が開催されました。各学年から選出された二名の代表者が学校生活や人生などのテーマで発表しました。今年もすばらしい発表内容でした。十名の審査委員の審査の結果、一位に三年次生の加藤瞳さんが、二位に二年次生の池本和也くんがそれぞれ選ばれました。十月二十五日(出)にサンプラザホールで行われる香川県定時制通信制生活体験発表大会に一位の加藤さんが、四国地区の通信制生活体験発表大会(テニッ審査)に二位の池本くんが出場しました。

○文化祭「LEAVES」 九月六日(出)、七日(日)(平成二十六年)

二日間にあわせた、文化祭が開催され、「LEAVES」という全体テーマのもと本校通信制は「八十八(はっぴ)」をテーマとして教室展示を行いました。夏期休業日を活用し、生徒会が中心となり、四国遍路についての展示



制作に取り組みしました。また、リーダー研修時に伐採した竹を活用した作品も展示しました。その他、通信制をより理解してもらおうための展示、芸術選択者や出展希望者による作品の展示なども加えた通信制らしい展示となりました。準備や出展に協力された皆さんありがとうございました。

○体育祭 十月十二日(平成二十六年)



第四十回体育祭が十月十二日(日)に本校体育館で開催されました。午前中は、子ども達もおおぜい参加したパン食い競争や長縄跳びのほか、全員参加の玉入れに大いに盛り上がり、午後からはバドミントンやソフトバレーボールに熱戦が繰り広げられました。今年は、午前中のパン食い競争、タイフーン、長縄跳び、玉入れで優勢となった四年生が午後からもバドミントンで優勝して総合得点九十点となり、二位の三年次生に十七点もの大差をつけ、総合優勝しました。

○遠足 十一月二十三日(平成二十六年)

通信制生徒・職員七十七名はバス二台に分乗して徳島県のとくしま動物園にむけて出発しました。とくしま動物園は、豊かな自然に囲まれた広大な敷地に世界の代表的な動物を温帯・熱帯・サバンナ・寒帯の四つの気候帯に分けて飼育している動物園です。各学年で集合写真を撮影したのち、入場し、セイロゾウ、アンデスコンドルなどの動物たちを観て弁当を食べたり、お土産を買ったりして時間を過ごしました。日頃なかなか話せなかった友達や先生方と話したりすることもでき、一日中天候にも恵まれた思いに残る遠足でした。



二十六年 度 先輩講演会

「情報革命を楽しむ」

守 谷 健 弘 氏

(昭和四十九年卒)



二〇一四年十月二十八日、通算三十五回目となる第二回玉翠グローバルアカデミー(GG A)先輩講演会が体育館にて開催された。

今回のゲストスピーカーは守谷健弘氏だ。

守谷氏は、一九七四年に本校を卒業され、東京大学工学部に進学された。

その後、NTTに入社され、NTTヒューマンインターフェース研究所やNTTサイバースペース研究所の特別・主幹研究員など多くの方面で大活躍されていらした。

また、著書としては「音声符号化」なども出版されている。

そして現在は、NTTコミュニケーション科学基礎研究所守谷特別研究室長やNTTフェローとして活躍されている。

講演では「情報革命を楽しむ」という演題に沿って、情報化が進む今の時代を、自身の体験を交えながら分析なされ、生徒はとても興味深い様子で、食い入るように話を聞いていた。

守谷氏の生徒一人一人の心をつかむような講演は、聴衆をひきつけ、改めて「情報革命」について考えさせてくださり、とても有意義な時間であった。

校 友 会 成 績

放送局委員会

▼第31回香川高文連放送部門発表会

- ▽アナウンス部門 三位 奥田佳名子
- ▽朗読部門 三位 前田なつの
- ▽ビデオ番組部門 三位 大屋 利城

語学部

▼第25回国際理解のための高校生英語スピーチコンテスト

- ▽グループ発表の部 一位 谷・嶋村・吉田・眞重・高木

書道部

▼第31回香川県高等学校総合文化祭書道展

- 優秀賞 矢嶋 佑奈

馬術

▼第69回国民体育大会

- ▽少年スピードアンドハンディネス 一位 大西 徹平

陸上部

▼県高校新人大会

【男子】

- ▽三段跳 優勝 久米 悠介
- ▽五千 m 競争 二位 白井 尚樹
- ▽四×百 m リレー 二位 薬王・後藤・中川・久米

- ▽百 m 三位 久米 悠介
- ▽八百 m 三位 鈴木 貴大
- ▽四百 m ハードル 三位 山口 翔馬

【女子】

- ▽砲丸投 優勝 関 菜都美

- ▽四百 m ハードル 優勝 堤 千紗
- ▽百 m ハードル 二位 堤 千紗
- ▽四×四百 m リレー 三位 國村・堀田・七宮・堤
- ▽ヤリ投げ 三位 関 菜都美

▼四国新人戦

【男子】

- ▽三段跳 三位 久米 悠介
- ▽砲丸投 二位 関 菜都美

▼県高校総体

【男子】

- ▽百 m 一位 久米 悠介
- ▽五千 m 競争 二位 白井 尚樹
- ▽五千 m 競争 三位 大山 泰史
- ▽四×百 m R 一位 薬王・後藤・塩崎・久米

- ▽三段跳 二位 久米 悠介
- ▽八種競技 二位 河野 禅
- ▽走幅跳 三位 塩崎 将司

【女子】

- ▽四百 m H 一位 堤 千紗
- ▽砲丸投 一位 関 菜都美
- ▽百 m 三位 八木 美咲

水泳部

▼県高校新人大会

【男子】

- ▽二百 m 自由形 一位 頼富 賢斗
- ▽二百 m 個人メドレー 二位 頼富 賢斗

- 【女子】
- ▽二百 m 自由形 三位 勝部 柚香
- ▽四百 m 自由形 三位 勝部 柚香
- ▽百 m バタフライ 三位 菅谷美紗希

▼県高校総体

【男子】

- ▽二百 m 自由形 三位 頼富 賢斗
- ▽二百 m 自由形 三位 勝部 柚香

サッカー部

▼県高校総体

- 三位

ヨット部

▼県高校総体

【男子】

- ▽団体 三位
- ▽四二〇級 三位 池崎・徳永
- ▽シーホッパー級SR 三位 岡田龍之介

【女子】

▽団体 三位

テニス部

▼県高校新人大会

【男子】

- 団体 三位

フェンシング部

▼県高校新人大会

【男子】

個人

▽エペ 二位 小河 舜矢

▼県高校総体

【男子】

- ▽団体リーグ戦 二位
- ▽フルール 個人・三位 植松 亮祐

平成二十七年 度

教職員人事異動

【転出・退職】

英語 教諭	高橋 充	退職
英語 教諭	高木 早	退職
英語 教諭	岩野 公彦	退職
英語 教諭	三輪 義正	再任用
英語 教諭	森 順一	再任用
英語 教諭	池内 学	再任用
英語 教諭	荻田 浩城	再任用
英語 教諭	山口 綾香	再任用
英語 教諭	石川 翔太	再任用
英語 教諭	穂積さとみ	再任用
英語 教諭	山口 京子	再任用
英語 教諭	小西 正博	再任用
英語 教諭	北畠 千稔	再任用

【新規・転入】

英語 教諭	長尾 裕隆	教育センターより
英語 教諭	尾崎 慶子	三木高校より
英語 教諭	曾川 恵子	丸亀高校より
英語 教諭	三木 信広	高松第一高校より
英語 教諭	牛田 尚	高松桜井高校より
英語 教諭	大伴斗志郎	善通寺第一高校より
英語 教諭	光武 玲奈	琴平高校より
英語 教諭	中田 啓之	高松養護学校より(通信制)
英語 教諭	鶴岡 美里	香川中央高校より
英語 教諭	山根裕美子	高松西高校事務部長より(再任用)
英語 教諭	片山 保	三本松高校より(再任用)
英語 教諭	佐藤 吉生	新規採用

【校内異動】

保体 教諭	中山 尚昭	通信制→全日制
-------	-------	---------

1. 国・公・私立大別合格者数 平成27年度 大学合格者数 (平成 27 年 4 月 3 日現在)

学 校 名	人 数	学 校 名	人 数	学 校 名	人 数	学 校 名	人 数	学 校 名	人 数
北 海 道 大	2	徳 島 大	9	北 林 大	6	明 治 学 院 大	1	関 西 医 大	1
東 北 大	2	鳴 門 教 育 大	1	杏 林 大	1	立 教 大	5	関 西 外 大	1
筑 波 大	4	香 川 大	38	慶 応 大	16	早 稲 田 大	27	近 畿 大	11
お茶の水女子大	1	愛 媛 大	6	実 践 女 子 大	2	麻 布 大	2	摂 南 大	1
電 気 通 信 大	1	高 知 大	1	芝 浦 工 大	2	マリアンナ医科大	1	関 西 学 院 大	27
東 京 大	10	九 州 大	8	順 天 堂 大	1	名 古 屋 外 大	1	神 戸 学 院 大	2
東 京 海 洋 大	1	佐 賀 大	1	昭 和 大	4	南 山 大	2	神 戸 学 子 大	1
東 京 外 国 語 大	1	宮 崎 大	1	成 蹊 大	1	藤 田 保 健 衛 生 大	1	神 戸 薬 大	4
東 京 学 芸 大	1	国 立 大 合 計	194	成 城 大	1	京 都 外 大	1	兵 庫 医 大	2
一 橋 大	1	国 際 教 養 大	1	聖 心 女 子 大	1	京 都 産 業 大	4	武 庫 川 女 子 大	3
横 浜 国 立 大	5	横 浜 市 立 大	2	大 東 文 化 大	1	京 都 女 子 大	14	川 崎 医 大	1
岐 阜 大	2	静 岡 県 立 大	1	津 田 塾 大	3	京 都 薬 大	4	就 実 大	1
静 岡 大	1	愛 知 県 立 芸 大	7	帝 京 大	1	同 志 社 大	66	ノートルダム清心女大	1
名 古 屋 工 業 大	1	大 阪 府 立 大	1	東 京 家 政 大	1	同 志 社 女 子 大	14	徳 島 文 理 大	10
京 都 大	6	神 戸 市 外 大	1	東 京 女 子 大	6	立 命 館 大	85	松 山 大	2
京 都 工 芸 繊 維 大	1	県 立 広 島 大	1	東 京 薬 科 大	1	龍 谷 大	6	産 業 医 大	1
大 阪 大	20	広 島 市 立 大	1	東 京 理 大	15	大 阪 医 大	1	そ の 他	7
大 阪 教 育 大	14	公 立 大 合 計	15	桐 朋 学 園 大	1	大 阪 薬 大	3	私 立 大 合 計	470
神 戸 大	1	酪 農 学 園 大	2	日 本 大	1	関 西 大	19		
奈 良 女 子 大	6	自 治 医 大	2	日 本 獣 医 生 命 大	2				
鳥 取 大	1	跡 見 学 園 女 子 大	2	日 本 女 子 大	3				
島 根 大	2	東 京 歯 大	2	法 政 大	4				
岡 山 大	17	青 山 学 院 大	6	明 治 大	19				
広 島 大	27	桜 美 林 大	1						
山 口 大	1	大 妻 女 子 大	3						

2. 国・公・私立大学学部別進学率 (%)

学 部	文 学	法 政	経 済	理 工	農 林	医 学	生 活	体 育	芸 術	教 育	そ の 他	合 計
	25	10	11	2	20	5	9	3	0	1	1	100

◆◆◆玉翠会からの図書館への寄付金について◆◆◆

平成 26 年度、東京玉翠会より寄付金 150,000 円をいただき、下記の図書を購入致しました。

『日本文学全集 全 30 巻』	84,952 円
『内山節全集 全 15 巻』	42,000 円
『日本の 20 世紀芸術』	26,000 円

玉翠関係寄贈図書

山崎 敏秋氏 (昭37年卒)	
「ザグロスの高原を行く」	1 部
「なにゆえキリストの道なのか」	1 部
「仏教に魂を託せるか」	1 部
宮武 正明氏 (昭38年卒)	
「子どもの貧困 貧困の連鎖と学習支援」	1 部
泉保 安夫氏 (昭45年卒)	
「歴史民俗研究 第11輯 櫻井徳太郎賞受賞論集」	1 部
香西 信子氏 (昭21年卒)	
「句集 碧き氷河」	1 部
「貿易風」	1 部
「思い出 かざぐるま」	1 部
「思い出 かざぐるま 二」	1 部
「句集 幾山河」	1 部

森川 智喜氏 (平15年卒)	
「半導体探偵マキタの未定義な冒険」	1 部
「スノーホワイト 名探偵三途川理と少女の鏡は千の目を持つ」	1 部
脇 明子氏 (昭41年卒)	
「読む力が未来をひらく 小学生への読書支援」	1 部
「蛙となれよ 冷し瓜 一茶の人生と俳句」	1 部
新谷 鈴子氏 (昭29年卒)	
「西雲の詩 一新谷祐弘・鈴子作品集」	1 部
「新谷祐弘写真集 一妻・鈴子との絆」	1 部
立山 信浩氏 (昭35年卒)	
「郷土史事典 笠居郷探訪 第二版」	1 部
藤本 稔氏 (昭29年卒)	
「回想 1 シアトル21世紀万国博 回想 2 ペンシルバニア大学 回想 3 建築家ルイスカーン」	1 部

平成27年 4 月末までにご寄贈いただいた図書

宮武 正明氏 (昭38年卒)	
「絆を伝えるソーシャルワーク入門 一社会福祉・児童家庭福祉・相談援助のサブテキスト」	1 部
木谷 勤氏 (昭20年卒)	
「讃岐の一豪農の三百年 一木谷家と村・藩・国の歴史」	1 部
「もういちど読む山川世界現代史」	1 部

ありがとうございました。 高松高校図書館

会員の皆様へ

「玉翠会報」郵送から

Eメール・ホームページによる通信方法

移行へのお願い

平素より玉翠会の活動にひとかたならぬご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて当会は、毎年会員の皆様から年会費をいただきながら運営にあたっております。しかし近年、少子化の影響により卒業生徒数が減少していることから、会員構成の逆ピラミッド化が進行しつつあります。このため、現在の玉翠会の収入は徐々に減少しており、近い将来、財政が逼迫するおそれがあります。これは、地方の団体・組織が抱える共通の問題といえます。

現在玉翠会は、会報の印刷費及び郵送費に年間400万円程度を費やしており、その経費は年間の予算の4割を占めています。つきましては、経費削減を図るため、現在郵送している会報を、Eメールやホームページからのダウンロード方式に徐々に移行していきたいと考えております。

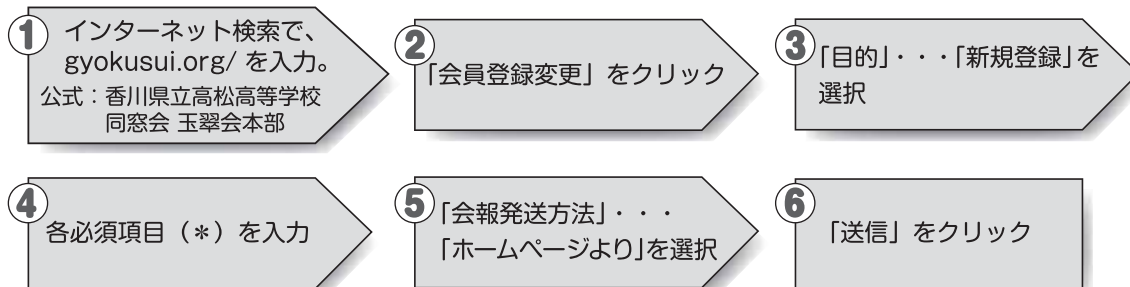
高松高校玉翠会ホームページからEメール登録が簡単にできますので、ぜひ登録をお願いいたします。もちろん、PC操作ができる方からで結構です。なお、お預かりしました個人情報とは、今後は玉翠会ネットワークのサーバー内で保管し、厳重なセキュリティの下管理していきます。なお、従来通り会報の郵送をご希望の方は、そのままだでも結構です。ただし来年度より、年会費を未納入の方に関しては、発送を数年に一度の節目の年に限らせていただきますことをご了承下さい。

今後円滑な財政運営を目指すためにも、玉翠会への参加率の向上と年会費の支払い率アップに向けより一層の努力を続けていく所存です。なにとぞ御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

ご 依 頼 内 容

1. 新しい「Eメール・ホームページによる通信方法」へ移行ご希望の会員様

- ・高松高校玉翠会ホームページにてEメール登録と会報発送方法の選択をお願いします。
- ・毎年登録されたEメールアドレスに下記内容をご連絡します。
- ・新年度玉翠会報のホームページ掲載のご案内・年会費振込依頼・その他連絡事項等



2. 従来通り玉翠会報等の郵送をご希望の会員様

特にお手続きはございません。

※ 迷惑メール設定をされている方は、以下のドメインの受信を許可する様に設定変更をお願いします。
gyks.org 及び gyokusui.org